

SDGs で持続可能な企業を目指す

～自社のパーパス（存在意義）を明確にする～

ワタミ 株式会社 執行役員 SDGs 推進本部長
一般社団法人 中部 SDGs 推進センター 副代表理事
百瀬 則子



目 次

はじめに	1
1. ポスト・コロナの世界 サステナビリティを超えたリジェネレーションへ	1
2. SDGs は未来の子ども達のために	4
(1) 「SDGs」とは.....	4
(2) 国連で SDGs ができるまで.....	4
(3) SDGs に取り組む	4
(4) 未来の子ども達のために SDGs.....	5
3. 地球を守るライフスタイル.....	6
(1) 環境という切り口で考える SDGs.....	6
(2) スーパーマーケットの環境への取り組み.....	6
(3) スーパーマーケットの営業活動から発生する廃棄物.....	7
(4) 食品リサイクルは命をつなぐ輪.....	8
4. 食品を捨てないライフスタイル.....	11
(1) 食品ロスの発生場所 一番多いのは「一般家庭」	11
(2) ワタミ 株式会社 「おいしい食べキリ」で食品ロス削減.....	12
5. 食品リサイクル・ループ 地域で進める循環の輪	13
(1) 「ワタミの宅食」 弁当工場のリサイクル・ループ	13
(2) 名古屋市内の外食産業 5 社共同で構築したりサイクル・ループ	13
6. ワタミ SDGs 宣言「人×地域×地球＝ワタミモデル」	14
(1) ワタミが本業の中で進める SDGs.....	14
(2) 宅食事業におけるタスクフォース「容器リサイクル・ループ」	15
7. 持続可能な社会を目指して.....	17
(1) エシカルな買物で SDGs.....	17
8. ポスト・コロナの世界 サステナビリティを超えたリジェネレーションへ.....	20
(1) ワタミ SDGs への取り組み「Less Bad」から「More Good」へ.....	20
(2) リジェネレーション（再生）への取り組み.....	21

はじめに

2001～2018年、ユニー株式会社（スーパーマーケット）からサークルKサンクス、ファミリーマートなど（コンビニエンスストア）におけるCSR環境社会貢献の担当部長を歴任。2018年の定年退職後、非常勤でワタミ株式会社のSDGs推進役員を務める傍ら、仲間と一般社団法人 中部SDGs推進センターを立ち上げ、中部地方を中心に中小企業や学校などの団体にSDGsを広める活動をしている。

本講演では、マーケティング活動でのSDGsの実践を通じ、自社の向上だけでなく、地球環境や社会の課題を複数の団体が共同で解決していく「アウトサイド・イン・アプローチ」について、小売業・外食産業の事例を紹介しながら、以下4点に関連づけて解説する。

- ①食品ロスとSDGs（SDGs 12）
- ②地球環境（海洋プラスチック汚染）とプラスチック容器包装（SDGs 14）
- ③エシカル消費とパートナーシップ（SDGs 17）
- ④自社の存在意義を明確にする。自社のコア・コンピタンスを本業の中で確立する。

1. ポスト・コロナの世界 サステナビリティを超えたリジェネレーションへ

3～6月、多くの外食産業が休業し、企業ではリモート勤務が急増した。外出を控え、感染リスクを下げることで、自分や家族の命、会社を守ることを意識したのではないだろうか。相対的に、コロナ禍を境に、世界中でサステナビリティや未来への意識が低下している。

図-1は「マズローの法則」である。人は生きていく上で段階的にさまざまな欲求をもち、下位の欲求が満たされると、順に上位の欲求が生じることを示している。コロナ禍で「安全欲求」が脅かされている今、上位欲求にあたる「社会を良くしたい」「事業を拡大したい」という「自己実現」まで思い至りにくい状況といえる。

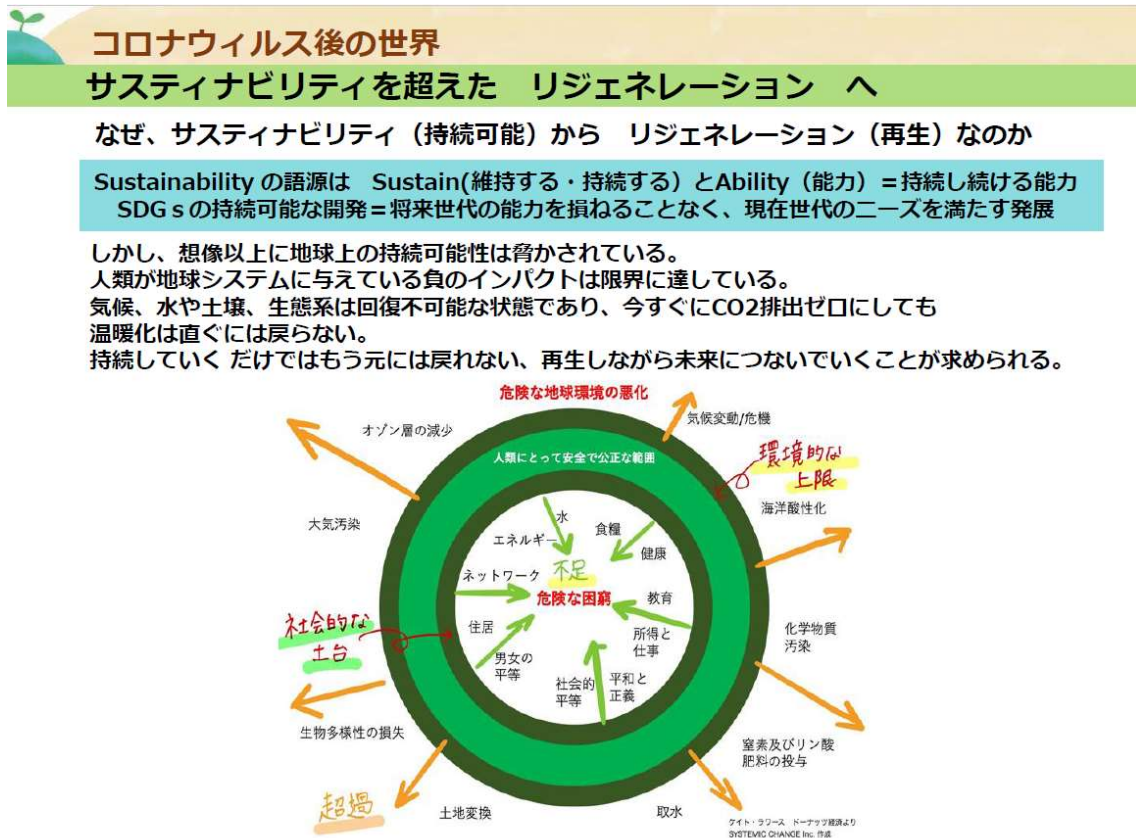
図-1



具体的に考えてみる。コロナ禍以前は、「安全欲求」など基本的な欲求が充足され余裕があったため、「地球環境のために使い捨ての容器包装を止めよう」「自家用車より公共交通機関を使おう」など、地球環境を守る行動へシフトしつつあった。しかしコロナ禍をきっかけに、「命を守る」ことが優先され「地球環境を守る」方向から逆行しているのである。

しかし、コロナ禍という差し迫った問題と同時に、未来について考えることは可能である。

図－2



図－2は、「ドーナツの輪の内側」＝「人が安全で公正な生き方ができる範囲」を表す。社会的にも環境的にも、このドーナツの輪（着色部分）にいれば安心、という指標である。例えば社会的には平等やネットワークなどが保たれ、環境的にはオゾン層の破壊や CO₂ の増加を食い止めている。ところがコロナ禍により、このドーナツの輪がゆがんでしまった。

ここから 2～3 年でコロナウイルスを克服し、2030 年からもっと先まで持続可能な社会にしていくため、社会・経済・環境の問題を同時に解決することが求められている。このための「サステナビリティを超える変化」として、「リジェネレーション（再生）」が必要となる。